

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成23年(2011)10月10日
No. 46
発行 高津啓洋

植樹ボランティア プレジデント・フランコ市で開催

プレジデント・フランコ市では、当会が提供するポット苗、5000本を50の中学高校の敷地に、100本ずつ植樹を計画し、市長をはじめ、教育委員会、各学校と生徒が一体となって、9月5日に盛大に植樹祭を行いました。メイン会場となった、高校の体育館には市長をはじめ



め校長、先生、生徒が集まり、式典が行われました。

「地球の緑を守る会では、昨年はミングアンス市に植樹し、その前にはシュウダデレスステ市に同じように植樹をしてきました。命を守る植樹の重要性を、パラグアイの人たちと共有して、植樹にあたることを嬉しく思います」と現地に移住した立場から飯野貞夫



年間4万本の苗木を生産

元理事が挨拶しました。また、地元の高校生の華麗な踊りや、ボランティア隊のメンバーのパフォーマンスの交流もされ、楽しい雰囲気の中での植樹祭となりました。その後、各学校に分かれて、植樹を展開。そして今後のケア体制は各学校の生徒が行うようになります。数年にわたり植樹してきた各市では生徒のケアがよく出来ていて順調に成長していました。

なお、植樹苗木作りは、パンタナール地域と、東部地域の2カ所で年間7万本の苗木を提供できるようになりました。

「自分で出来る植樹」勉強会



9月23日24日の祭日と週末を利用して、川崎地域で開かれたセミナーで、高津理事長が講座を担当し、23日は植樹の重要性を各種の資料を示しながら説明、24日は実際の森の探索を通して森づくりについて具体的な説明が行われ、参加した38名の人たちに、身近に出来るポット苗作りの実践講座が持たれ



ました。

森にはどんぐりが多く落ちていましたので、早速、各自が家に持ち帰り、ポット苗作りに挑戦です。

理事会と総会 震災を受け支援へ

10月9日 定例の理

事会及び役員会との議事があり、その後、総会が行われました。そこで22年度決算報告と23年度事業計画が発表され、承認されました。

また、特に、東日本大震災に対しての、宮脇昭博士の提案を受けて、植林による防波堤構想の発表と、その為の苗木提供のためのポット苗作りについての提案がなされ、名古屋、長野、千葉、東京でのポット苗作り支援体制を確認しました。

